



● 代表者ご挨拶

ベンチャーキャピタルの使命は、ベンチャー企業に成長と利益を投資家に確実な利益をもたらすことです。私どもは上場志向型企業、創造型企業、スタートアップス、シード段階の企業への投資という分野に挑戦し、経験豊富なベンチャーキャピタリストと各分野のエキスパートである外部パートナーと連携、投資先企業と共に、当社自らも成長を目指します。また、銀行、信用金庫、信用組合などの間接金融と一緒に、起業家の内なる能力を引き出し、新たな市場を創造する所存です。

「必要な人に、必要なときに、必要なだけ資金を提供できる」真の金融を目指し、ステークホルダーの利益の最大化を目指しつつ、社会の発展に寄与して参ります。

● 代表者プロフィール



川分 陽二 (かわけ ようじ)
代表取締役社長

滋賀県彦根市出身、1977年京都大学法学部卒。住友銀行(現・三井住友銀行)にて12年間、主として個人零細企業から中小、大企業までの営業の現場を幅広く担当。1989年日本アセアン投資(現・日本アジア投資)に転じ、日本企業のアセアン進出を金融と情報で支援。4年間で27社のベンチャー企業に投資し、NOVAやラウンドワンなど9社が上場した。

1998年9月フューチャーベンチャーキャピタル(FVC)を創業、3年でナスダックジャパン(現・JASDAQ)に上場。2011年6月社長退任までに約300社に投資、ネクストウェア、ケア21、ジェイエスエスなど21社が上場した。FVC自身が小さな事務所に机一つからスタートしたベンチャー企業であり、組織を作って急成長し短期間に上場させた経験から、ベンチャー、起業家に寄り添った支援をしている。

1998年5月の中小企業有限責任組合契約法の成立に基づいた国内で初めてのファンドを組成したのをはじめ、地方のベンチャー支援のための地域ファンドを、地元自治体、金融機関や中小機構の支援を受けて次々と設立し、地方にベンチャー投資を広める先駆者的役割を果たした。2005年、年金基金や大手銀行などから出資を受け、100億円のベンチャーファンド組成に成功。

2013年1月フリーバンク株式会社を設立し、代表取締役としてベンチャー企業のコンサルティングを開始、2017年10月に東京TY フィナンシャルグループ(現・東京きらぼしフィナンシャルグループ)と二人組合によるベンチャーファンド「東京神奈川イノベーション応援1号投資事業有限責任組合」を組成し、本格的なベンチャー投資を開始。

● フリーバンクの目指すもの

- 金融機関の企業に対する事業性評価能力を高め、直接金融と間接金融の協力により、無担保無保証の資金を提供します。
- 日本の株式市場の現状をふまえ、企業内容を適時適切に開示することにより、個人投資家が長期投資をできる環境作りを進めます。
- 企業が、税務会計だけでなく、企業会計原則により、収益と資金管理を適切に行えるように指導と支援を行います。また、企業内容を正確に分析し伝えるアナリストと協力して、個人投資家に企業の魅力を正しく伝えます。
- 成長意欲のある起業家に資金と人材を提供し、管理能力と営業能力を向上させる支援を行います。
- 起業家にとって、今後予想される障害や問題を事前に予測して、心構えや対策を準備する手助けをします。



● 投資方針・育成支援

投資方針

次の十年を共に歩むことを目指して、ベンチャー企業経営者を支えつつ、育成していきます。そのため、次のような点を重視しています。

企業の経営者の人間性、理念、ビジョン、信念が優れていること。
また、アドバイスを受け入れる柔軟性があること。

成長市場において、他社との明確な差別化をもっていること。

成長に不可欠な、企業の管理能力、特に会計の透明性を高めて、収益管理、資金管理を日次で把握できるようになるまで、改革していく覚悟があること。

育成支援

資金の調達と投資について

間接金融機関と協力して、成長に必要な資金を適時、適切に調達します。

収益・資金管理について

ITを活用して、安価で有用な会計システムを導入し、収益管理、資金繰り管理を徹底します。

投資先の成長の道筋について

投資先であるベンチャー企業が抱えがちな課題や起こりうる問題を予測して、事前に適切な対応を行います。

投資先の営業支援について

銀行などの取引先ネットワークや外部専門家との協力により、売上向上の支援をします。